

# トッパンフォームズが決済プラットフォームを提供 広がるNFCのビジネス活用

トッパンフォームズはNFCの技術開発に早くから取り組んできた。年度内には決済プラットフォームを提供することで、NFCのビジネスでの利活用の場が広がりそうだ。

文◎村上麻里子(本誌)

ビジネスフォームやDPS(デジタル・プリント・サービス)などの情報ソリューションを提供するトッパンフォームズ。同社は5年ほど前から、近距離型無線通信規格NFC関連の技術開発に意欲的に取り組んでおり、カードやリーダー/ライタ等のハードウェアモジュール、ドライバー等のソフトウェア、SDKに至るまで、NFCのアプリケーション開発に必要な製品をトータルで提供している。

また、ソニー、フィリップス(現NXPセミコンダクターズ)、ノキアの3社が2004年に設立した「NFCフォーラム」にプリンシパルメンバーとして参画。国内でも日本ICカードシステム利用促進協議会(JICSAP)内にあるNFC研究会のワーキンググループ

で主査を務めるなど、NFC普及の牽引役となっている。

ここでは、①トッパンフォームズが提供するNFCを活用したアプリケーションの事例、②決済プラットフォーム対応の動き、③決済プラットフォームで変化するNFCビジネスの3点について見ていく。

## ITデバイス管理の活用も

まず、NFCの活用事例だが、リーダー/ライタを中心に商用化が進んでいる(図表1)。

### 事例1 双方向コミュニケーション

日本タクシー広告は、都内を運行するタクシー約4000台の車内に7インチタッチパネルの小型サイネージを設置し、動画や音声による番組、



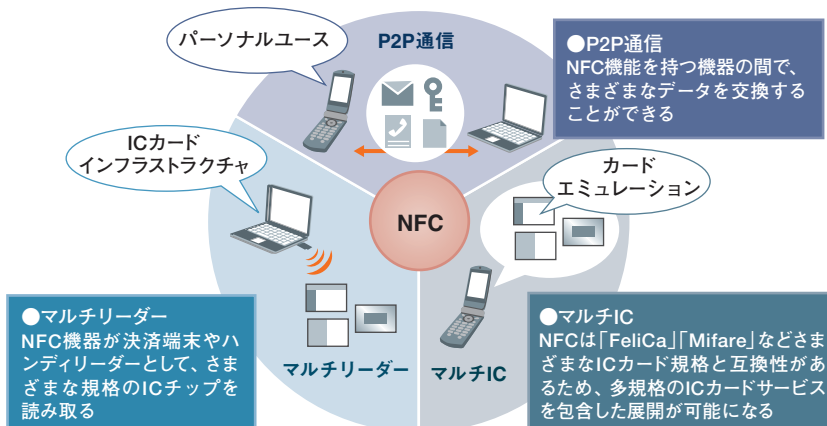
ITソリューション本部  
決済サービス推進グループ  
プロジェクトリーダー  
南宣吉氏

CMを放映している。端末にはNFC対応のICカードリーダー/ライタを搭載しており、携帯電話をかざすと放映コンテンツと関連したモバイルサイトを閲覧したり、キャンペーンに応募することができる。将来的には、広告と連動した物販の販売決済なども想定している。

### 事例2 アルコール検知システム

今年5月から、トラックやバス、タクシーの運転者は運行前/後にアルコール検知器で酒気帯びの確認をすることが法的に義務化された。こうした流れを受けて、トッパンフォームズではNFCリーダー/ライタを活用し

図表1 NFCの概要



NFC対応リーダー/ライタを搭載した小型のサイネージ端末に携帯電話をかざすとコンテンツと連動したモバイルサイトにアクセスできる